参考資料１

通信制高等学校の質の確保・向上に関する調査研究協力者会議
第５回　意見概要

○　添削指導・面接指導・試験といった在り方については、そもそもの考え方から変えていくことが必要なのではないか。例えば、添削指導での紙に書いてある答案用紙に対して採点・コメントするという考え方、面接指導での授業の考え方、試験を知識の習得に関する観点に特化して行っているような場合の考え方など、制度化当初の価値観・学習観が色濃く残っているものについては、情報社会におけるＩＣＴを活用した学びを実現する中では、考え方の前提を変えていくべきではないか。

○　通信制高校は、自学自習が必要だという点も含めて、ある意味大学的な要素があると感じている。そういった面も念頭に置きながら、検討すべきではないか。

○　通信制高校も、高等学校であることには変わりないので、高等学校教育として身に付けるべき資質・能力は当然に共通するものである。

○　通信制高校において、ここまでＩＣＴが発達していない段階の中で出来た仕組みの中にも、例えば、学校を温かい雰囲気・長くいることができるような場としたり、対面を大事にするようにしたり、それはそれでありだと思っている。一方で、ＩＣＴを最大限に活用することによって、例えば、試験について、定期テストのように行うのではなく、単元ごとに学習の習得状況を確認するような方法、メディアを活用した学習について、テレビ放送等に限らず、ＡＩを活用した学習ソフト等の個別最適な学びとする方法など、これまでとは全く違った通信制の在り方も考えられる。ただ、これらが共通に大事にすべきものもあると思うので、そこは何かということをクリアにしながら、検討していくべきだろう。

○　学びの在り方をＩＣＴ化していくのみならず、学校運営や教員の働き方改革など、様々な場面でＩＣＴを活用していくことも考えられる。

○　通信制高校であっても、人と人とが接する中での安心・安全な居場所を提供していくことは、どれだけ ICT 機器が発達しても、学校という場において絶対に必要だと感じる。

○　学校ヒアリングの中でも、定時制と通信制を併設することによって、新しい世界が展開されていたと感じる。今後は、午前・午後・夜間といった多部制と通信制とを掛け合わせることも一つの在り方として検討することで、様々な可能性が開かれるのではないか。

○　通信制高校も高校であり、まずはその認識に立って改めてしっかりと考えていかなければならないと感じる。添削指導、面接指導、試験、メディア学習を組み合わせて単位認定するという通信制課程の基本の在り方に関して実証研究を進めていくに当たっては、高大接続改革の中でも議論のあった、高校教育とは何をすべきなのか、といったことを意識しながら、その実現に向けて進めていく必要があるのではないか。例えば、通信制課程で主体的・対話的で深い学びの実現をするにはどうしたらよいか、外部検定試験をどう活用するかなど。ポートフォリオなどを活用する際にＩＣＴを活用するのは当然必要であるし、学びの基礎診断なども活用してより細かい単位で学力の定着を着実に図っていくことも考えられるのではないか。

○　通信制課程でも、Chromebook の活用により、自分の意見を表現することが苦手な生徒でも、端末に入力することで意見の集約・共有が可能となり、主体的・対話的で深い学びが実現しつつある。今後も端末の確保や無線ＬＡＮの増強等の条件整備が必須だと感じる。また、教員と生徒との対面でのやり取りも大切さであり、教員定数の適切な配置も必要と感じている。

○　今までの通信制高校は、知識を問う内容をベースにした添削指導、面接指導、試験がほとんどだったように感じるが、そこを根底から考えていく必要があると思う。また、通信制課程でどうキャリアデザインを考えるかという部分について、通信制高校を研究指定校として、きちんと実証的に進めていくという方向性は是非そうすべきと思う。

○　通信制高校の中には相変わらず安易な単位認定をするような学校もなる一方で、ＩＣＴを活用した様々な取組を積極的に進めていくことも重要だと思う。学校の教育手法を改善・改革できるように促すような活動を活発にしていくためにも、各学校の様々な取組に関して、第三者からの評価を組み合わせて活用していく手法もあり得るのではないか。

○　多様な生徒が在籍しており、通信教育からはじまりながらも、徐々に登校することが自らできるようになることを目指す生徒も増えている中で、通信制課程においても、必ずしも通信教育の方法のみによらずとも、対面による教育方法を組み合わせて行うことも考えられるのではないか。

○　コロナ禍において、全日制課程の生徒、特に進学校の生徒は、オンライン授業で自ら学んでいける一方で、通信制課程の生徒はやはり登校した上で対面にて手厚く指導しないと上手くいかないような学校もあった。通信制課程だからといって、必ずしも全てオンラインでやるのが良いというわけではなく、対面で行うものも重要であり、人が人に教えるという営みは根本的に最も尊重すべきと考えている。その一方で、学習データを利活用することにより、個々の生徒に最適な学びを提供することができるようになりつつある中で、そうしたものを取り入れていくことも必要。

○　通信制高校がそれぞれディプロマポリシーを設定し、それを踏まえてカリキュラムポリシーを設定し、どのように学びを保障していくのかを各学校の裁量で決めていくことになるとすれば、全日制・定時制・通信制と区分けする意味はなくなるのではないか。高校教育全体の中で多様性を認めた上で、各学校で定めるディプロマポリシーに基づき、教育課程や教育方法を決めることができるようになり、そうした多様な学校の中から、生徒は最も成長できると考えるものに入っていくことができるような制度を検討していく必要があるのではないか。

○　通信制高校だけではなくて、いろいろな学校において通信を取り入れた教育が行われているところ、著作権をきちんと処理していくことも重要。ICT がどんどん活用されていく中で、著作権教育が生徒及び教員に行われるよう啓発していく必要がある。

○　添削指導、面接指導、試験の実施に際して、観点別評価を取り入れている通信制高校は非常に少ない印象を持っている。通信制高校にも観点別評価をきっちりと位置付けるとともに、通信制課程で探究的な活動をどのように展開していくかを考えていくことが重要なのではないか。

※上記内容は、委員の了解を取っておらず、事務局がまとめたものである。